



東北大学

報道機関各位

2011 年 5 月 20 日
東北大学大学院生命科学研究科

生物多様性の日に、「海と田んぼからのグリーン復興」を 大学・NGO・企業団体が共同宣言

<概要>

東北大震災で津波による甚大な被害をうけた沿岸地域の復興は今、国際的な関心事となっています。農林水産業とともに生きていた地域が、より着実に復興するために、今、何を優先し、何を将来に見据えて復興に当たるべきでしょうか。

東北大学 生態適応グローバル COE※1（代表 中静 透 教授）は、大学・NGO・企業団体らと共に、2011 年 5 月 22 日の国連生物多様性の日に、東北復興に際して、生物多様性に配慮した「海と田んぼからのグリーン復興宣言」（別紙）を発表します。

日時： 2011 年 5 月 22 日（日）12:00～13:00

場所： 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)・国連大学中庭（東京都渋谷区神宮前 5-53-70）
「GREEN WAVE from AOYAMA」会場

東日本震災復興の際に、世界有数の漁場および農地を保有する当該地域の豊かさを支える生物多様性の回復を促すことで、より確かで持続可能な復興につながることを考え、今後、幅広く賛同を呼びかけ自ら具体的なプロジェクトを展開するとともに、復興計画関係各位にも、生物多様性への配慮の重要性を改めて呼びかけるものとなります。

また本プロジェクトメンバーの一人で、気仙沼において森と海の連環に取り組んでこられている NPO 法人「森は海の恋人」代表の畠山さんが、当日、国連大学で開催される「国連生物多様性の 10 年と国際森林年を踏まえて－震災復興支援シンポジウム「震災復興に向けて～がんばろう東北！」の基調講演に登壇し、「海と田んぼからのグリーン復興宣言」の紹介ならびに、森・里・海の連環、森づくりの循環、生物多様性、農林漁業の振興など多様な観点から震災復興と地域の再生を議論します。すでに定員に達し、参加できませんが、ビデオでご覧いただけます。

<http://videoportal.unu.edu/event/221> 併せてご紹介いただければ幸いです。

日時： 2011 年 5 月 22 日（日）13:30～17:00

場所： 国連大学 ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区神宮前 5-53-70）

主催：国連大学（UNU-ISP）、農林水産省、環境省

以上

※ COE : center of excellence（卓越した研究拠点）。国際競争力のある世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、文部科学省が 2002（平成 14）年度より推進しているプログラム。

(お問い合わせ・取材等のお申し込み先)

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学生命科学研究科生態適応 GCOE 担当：竹本 徳子 特任教授

電話番号：022-795-3637

海と田んぼからのグリーン復興宣言

生態系からの恵みを活かして人・海・田んぼそして森のつながりから復興を考える

2011年3月11日に発生した地震と津波により、私たちの住む東北地方は、甚大な被害を受けました。今やこの地域の社会と経済の復興は、国際的・日本全体の関心事になっています。これまで「森は海の恋人」と呼ばれてきたように、海の恵みは、山、森、川、そして田んぼの営みのつながりにも、支えられてきました。今回の被災地の多くはこうした生態系の恵み（生態系サービス）を最大限に利用する生活をしてきた地域です。

今、できるだけ早い復興は共通した願いですが、環境への影響評価を行なうことなく、早急に山や森を削り、川や海、そして田んぼの生物多様性や生態系への配慮のない造成は、生態系サービスを低下させて、被災地以外にも多くの二次的な災害を生み出しかねません。

私たちは、この地の農林水産業が享受すべき将来の生態系からの恵みを見据え、海や田んぼの生態系の豊かさや、生物多様性を育む「グリーン復興」を行うことで、農林水産業と共に生きてきた地域が、より着実に、力強く復興すると信じます。

そして、地域の豊かさと強さにつながる生態系の回復力を助け、自然と社会が共生した復興を、ひとりひとりの市民として、その計画から積極的に関わり、一緒に支えていくことを宣言いたします。



2011年 5月22日

海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト

東北大学 生態適応グローバル COE

NPO法人 田んぼ

NPO法人 森は海の恋人

NPO法人 環境会議所東北

NPO法人 サステナブル・ソリューションズ

～小さな渦を育てる杜～

賛同団体（順不同）

財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）、NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）、
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、一般財団法人 mudef、国連大学サステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）、
国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット、Think the Earth プロジェクト、
一般社団法人 CEPA ジャパン、NPO法人 アースデイ・エブリデイ、
JBIB 有志によるグリーン復興に向けたタスクフォース、日経 BP 環境経営フォーラム 有志によるタスクフォース

（賛同団体・プロジェクト募集中）

グリーン復興に向けたアクション

地元の個性豊かな生態系に目を向け、営みを考えていくことが災害にも強い地域づくりになる。

* グリーン復興：地域の豊かさと強さにつながる生態系の回復力を助け、自然と社会が共生する復興。

＜緊急的な施策例＞

1. 生態系のモニタリング

- ・沿岸、河川、田圃、森林、島嶼など、被害をうけた生態系の変化の大きさや、残された生態系の豊かさを把握。生態系モニタリングの結果を復興計画に活用する。

2. 生態系の回復力を助ける

- ・生産環境および生物資源の早期回復のため、海や田んぼから人工物や有害物質を除去する。

3. 生態系の能力の活用

- ・生態系の力を借りて有害物質を除去し、海と田んぼを回復する。

4. 被災家屋の再活用

- ・利用可能な木材を、住宅建設・木質パーティクル・エネルギーへと、カスケード的に活用する

5. 地元の自然資源の地元経済での活用

- ・地元産の木材を用い、田畑付きの木造復興住宅を、自らがつくる。

＜戦略的な施策例＞

1. 生態系の機能を活用した災害のリスクを和らげる土地利用

- ・沿岸の水田地帯は積極的に復元する。湿地の力を借りて、農地の地力を回復する。復元が難しいところ（海拔0 m以下など）は、新たな自然再生の場（干潟、海岸湿地）としての利用も考える。
- ・氾濫原や遊水池を設定したり、海岸の幅をとって湿地域（里湿地）を設け、災害のリスクを和らげる。
- ・オフセット、税制優遇制度（保全地役権等）、保険など、災害を緩和する土地利用に関する資金メカニズムをつくる。

2. 流域全体の生態系からの恵みを低下させない防災・造成の配慮

- ・その土地の植物を利用して、自然を回復する。
- ・海の自然の保全と良質な水源確保のために、適切な森林管理や土砂流出の少ない土地開発を行う。
- ・海の生物資源や、生物の移動に配慮した建造物（鉄道・道路）を作る。構造物の可動性の確保、水の勢いを受け流す家屋など、津波・水害による浸水の流れを緩和し、自然と調和する建造物の工夫を行う。

3. 生態系とその回復力を活かした、持続可能な営みの創造

- ・地域の産業計画（農業、漁業、林業、観光、教育）を構想する際、地元文化と生態系の回復力を取り入れて営みを考え、共有し、合意形成を図る。生態系からもたらされる景観や、郷土の持つ文化的な価値を積極的に高める。
- ・バイオマスエネルギー、小水力など、小規模な自然エネルギーを利用し、集落のエネルギー自律性を高める。また地域のエネルギーである地熱の利用を推進する。
- ・東北の豊かな食文化・地域資源を通して、復興と生物多様性の両方を支える他地域からの長期購買予約や投資などの、安定的な資金メカニズムをつくる。

▼お問い合わせ先： 東北大学大学院 生命科学研究科 生態適応グローバル COE 支援室 担当：竹本 徳子

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 TEL: 022-795-3637 FAX: 022-795-3638

e-mail: eco-gcoe@bureau.tohoku.ac.jp

※ 詳しくは、東北大学 生態適応グローバル COE Webサイト迄。 <http://gema.biology.tohoku.ac.jp/index.html>